

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

内容報告書

団体名: 公益社団法人 国際日本語普及協会

1. 事業の概要

事業名称	難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援、支援教材作成、難民への日本語教育への理解促進事業
事業の目的	難民問題が世界を揺るがしている現在、日本にとっても難民を今後どう受け入れるかは喫緊の課題である。難民が日本社会で自立し安全で健康的な暮らしを成立していくために、日本語支援がどうあるべきかという問題は、いまだ社会で十分に議論され共有されているとはいえない。AJALTの日本語講師はインドシナ難民受け入れの時代から今日まで約36年にわたって難民事業本部の運営の下、難民への日本語教育を実践し、また地域や企業においても教育・支援を行うなど幅広く活動してきた。難民への日本語教育は今日、地域で求められている「生活者としての外国人」のための日本語教育そのものといえるが、加えて実践にあたっては難民という特殊性に対する理解も必要である。また、多くの地域の教室がそうであるように、多文化・多言語、レベル差などに対応した教室運営が求められる。さらに今後の難民をはじめとする定住外国人支援の方向性としては、難民たち自身の自助の力を下支えし、架け橋となる人材を育てていくことも重要な課題である。本事業では「難民への日本語教育・支援」について、その基本的な考え方、方法、教材等について、支援者の理解の輪を広げ、当事者支援者を含め層を厚くしていくことを第一の目的とするともに、学習機会と場を切望する多くの難民とその家族、人道的配慮により在留を認められた人々に向けた日本語教室を昨年に引き続き実施する。この日本語教室をモデル教室として運営し、実践の場に支援者が参加する機会を提供する。モデル教室が学習者、支援者双方にとって良い学びと交流の場となり、結果として①学習者にとっては日本語力の向上、社会参加の促進、②支援者にとっては難民への日本語教育への理解促進、自らの実践に向けた動機づけとなることを目指す。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	定住難民に対しては、国の難民施策として572時間(1時間=45分)の初期集中日本語教育の機会が保障されてきた。しかし、諸事情により全ての難民が定住支援施設での学習機会に浴しているわけではなく、学習機会を切望する難民およびその家族は多い。そのうえ、難民認定には至らず、人道的配慮により在留を認められた人はこの学習機会を得ることもできない。また国の初期集中研修を終えた人の中でも、継続学習を必要とし希望する人も多い。難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた人々に対して、日本語学習の機会は、当事者の立場から見るとまだ十分であるとはいえない現状がある。他方、定住難民(インドシナ難民、条約難民および第三国定住難民)の存在は日本人の間で十分に認知されているとはいえず、まして難民への日本語教育の必要性と内容については日本語教育関係者の中にあっても理解されているとはいいがたい。また、地域日本語教育に関しては多くがボランティアに任されている現状があるが、学習者が集まらない、ニーズ・国籍・年齢・日本語力等、学習者の多様性に対応することの難しさに悩む支援者の声も多く聞く。また難民を前にしてどう教えたらよいかわからない戸惑う支援者もいる。一方、自ら日本語の壁と格闘しつつ日本社会の一員としての道を開拓していった先輩の難民や定住外国人の中には、同胞の日本語学習を支援またはそれを希望している人々が多く存在する。彼らの懸け橋としての力を磨くことにより、日本語支援もより充実した形になることは間違いない。私達が提案する難民という背景をもった人々に対する日本語教育は、相互尊重に基づいた「互いに学び合う」関係性を促進する。難民への日本語教育への理解を進めることは、難民はもとより地域在住の外国人を地域の仲間として暖かく受け入れる風土を生む契機ともなるだろう。まずは難民についての理解を深め、難民をはじめ、「生活者としての外国人」が暖かく日本社会に受け入れられる空気を醸成するような日本語教室を各地域で増やしていくこと、そのために貢献する人材を当事者も含め、増やしていくことが課題と考える。
事業内容の概要	①難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた人を主たる対象にする日本語教室の開催 前年度までの継続参加者および新規参加者を対象とした日本語教室を継続実施する。この教室を「難民を中心とした生活者としての外国人のためのモデル教室」として実施、運営する。 ②難民に対する日本語教育への理解を促進するための支援者研修の実施 前年度に引き続き「難民への日本語教育」について、その基本的な考え方、留意点、レベル差への対応、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容及び教え方のヒント、教材作成の方法等について、支援者研修を行う。日本語教育のノウハウを提供するだけでなく、当事者である難民による講義や事例紹介、ディスカッションを通じ、日本が難民を受け入れることの意味、難民と共に生きることの意味を参加者と共に考えていけるような未来志向の双方向的支援者研修とする。各地で難民への日本語教育を実施する人に参加を呼び掛ける。難民・定住外国人で同胞への支援を希望または実践している人々にも呼びかけ、架け橋としての人材育成の場とする。①の教室の授業を支援者が見学したり参加できるように工夫する。 ③難民及びその家族等定住者を対象とした日本語学習支援教材の作成 上記①を実施するのに合わせ、教室で使用する日本語学習支援用教材を作成する。作成に当たっては標準的なカリキュラム案にある各テーマの他、過去本事業で作成した教材を使用後のフィードバックを基に改定した教材等を盛り込む。
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月(11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	伊藤 寛了	公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部
2	石上 和敬	浄土真宗本願寺派光明寺/武蔵野大学
3	岩瀬香奈子	株式会社アルーシャ
4	小門 謙	一般財団法人 港区国際交流協会
5	清野成美	港区役所
6	高木 隆子	港区役所
7	関口明子	公益社団法人 国際日本語普及協会
8	小瀧雅子	公益社団法人 国際日本語普及協会
9	小形真佐子	公益社団法人 国際日本語普及協会
10	樋口 博	公益社団法人 国際日本語普及協会



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年5月1日(月) 18:30-21:00	2時間30分	公益社団法人 国際日本語普及協会	伊藤寛了, 石上和敬, 岩瀬香奈子, 小門謙, 清野成美, 関口明子, 小瀧雅子, 小形真佐子, 樋口博, 戸田佐和(陪席)	1. 取組1「日本語支援事業」、実施内容の検討 2. 取組1「日本語支援事業」参加者募集につき検討
2	平成29年11月15日(水) 18:30-21:00	2時間30分	公益社団法人 国際日本語普及協会	石上和敬, 岩瀬香奈子, 小門謙, 高木隆子, 小瀧雅子, 小形真佐子, 樋口博, 戸田佐和(陪席)	1. 取組1「日本語支援事業」、取組2「支援者研修事業」実施内容検討 2. 取組2「支援者研修事業」参加者募集につき検討
3	平成30年3月13日 (火) 19:00-21:30	2時間30分	公益社団法人 国際日本語普及協会	伊藤寛了, 石上和敬, 岩瀬香奈子, 高木隆子, 関口明子, 小瀧雅子, 小形真佐子, 樋口博, 戸田佐和(陪席)	1. 今年度実施事業につき検証 2. 来年度以降実施事業につき検討

(2) 事業の実施体制

事業責任者: 小瀧雅子、取組1実施責任者: 樋口博、取組2実施責任者: 小形真佐子 事業責任者は、公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部および難民コミュニティ等の協力を仰ぎ「日本語学習支援事業」の広報活動を行い参加者を募った。また、港区役所、港区国際交流協会や難民支援関係諸機関等の協力を仰ぎ、都内および近郊のボランティア団体に「支援者研修事業」への参加を呼び掛けた。 取組1、2実施責任者は、事業責任者と協力しながら「日本語学習支援事業」および「支援者研修事業」を中心となって実施した。両事業実施に当たっては、運営委員会の場において参加者の募集、両事業の運営、日本語支援のあり方等について協議、両研修事業の担当講師を加えた会議等の場においても検討を加えつつ事業を推進した。本事業実施後には、両事業担当講師との会議、運営委員会の場で成果、課題を検証、今後の事業展開につき協議した。
--

(3) 地域における連携体制

下記機関、団体から主に以下の協力、連携を得て本年度事業を実施した。 1. 港区国際交流協会(運営委員): 本事業の企画・運営及び広報、参加者募集 2. 港区役所(運営委員): 本事業の企画・運営及び広報 3. 公益財団法人 アジア福祉教育財団 難民事業本部(運営委員・在港区南麻布): 本事業の企画・運営、参加者募集 4. 浄土真宗本願寺派 光明寺(運営委員・在港区虎ノ門): 本事業の企画・運営、日本語教室等の講座開催会場 5. 株式会社アルーシャ(運営委員・在港区虎ノ門): 本事業の企画・運営及び広報
--

日本語教育の実施【活動の名称：難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援事業】									
目的・目標	地域在住の定住者と多文化共生社会の実現へ向けて共に進んでいくために、定住者が日本の文化や社会に関する知識を深めながら、日本の生活に必要な行為を日本語を使ってできるようにすることを目的とする。								
対象	難民及びその家族、人道的配慮により在留を認められた者をはじめとした定住者								
取組の内容	定住者の生活の質向上、日本文化や社会に関する理解促進に結びつく日本語教室を平成25、26、27、28年度に引き続き実施した。平成29年度は、前年度からの継続学習者に加え、新たな学習者を募って開催、新規学習者の中には日本語力の低い学習者の参加もいたことから、「入門」と「初級(実際には初・中級)」のレベル別2クラス編成で実施した。クラスでは、学習者の希望も取り入れながら、生活の各場面で必要となる日本語および背景知識についての学習を中心に進めた。併せて、四季折々の行事、日本の伝統文化や日本社会についての理解を深めるためのニュース等を題材とした学習を適宜取り入れた。上記の学習を中心に、学習者のコミュニケーション能力向上に焦点を当て、かな・漢字学習や文章の読み書き能力をつけるための練習、ことばを五感で味わい、また発話をスムーズにする効果もあるプロソディ、動詞の活用形を自然と習得できる口慣らし練習等の活動等も取り入れつつ進めた。								
実施期間	平成29年5月11日～平成30年3月1日					曜日・時間帯	木曜日(18:30～20:30)		
開催回数	全 80 時間 (1回2時間 × 40回)					開催場所	浄土真宗本願寺派光明寺		
参加者	総数 33 人 (日本語学習者 17 人、指導者・支援者 16 人など)					使用した教材・リソース	カリキュラム案、ガイドブック、教材例集、にほんごえてん、はじめましてにほん、本事業での既存作成教材等		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	1			5					
	ミャンマー 9人、パレスチナ 1人、コンゴ 1人								
カリキュラム案活用	16回から18回までの3回では災害をテーマに地震、火事、台風など主な災害について知るとともにその対処法を学習した。19回から22回の4回にわたり病気・病院をテーマに病気の症状、診療科、病院での診察、薬の種類、飲み方などについて、ロールプレイ等を交えて学習した。標準的カリキュラム案P.12「生活上の行為の事例」から「I 健康・安全に暮らす01健康を保つ、02安全を守る」また教材例集P.7～P.31「01健康を保つ」を参考にした。そのほか、11回、31回の戸外学習では、カリキュラム案P.102、ガイドブックP.38を参考に行動体験学習として、目的地までの道を尋ねるタスクを行った。								

日本語教育の実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成29年5月11日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	仲良くろう(中級/初級) 自己紹介(中級/初級) 漢字(中級)、かな(初級)	お互いの名前を覚える・自己紹介 プロソディ「町の中に家がある」 グループ毎に読み書き練習	松井治子 新野佳子	小形真佐子
2	平成29年5月18日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	日本の地理①(中級) 挨拶・基本表現(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	日本の世界遺産・旅行(中級) 挨拶、基本表現、カレンダー、自己紹介②(初級) グループ毎に読み書き練習	樋口博 宮下しのぶ	井上紀代
3	平成29年5月25日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	日本の地理②(中級) 一日の生活①(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	日本の産業・特産物(中級) 1日の行動①(初級) グループ毎に読み書き練習	新野佳子 小瀧雅子	沼里聡
4	平成29年6月1日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	日本の地理③(中級) 一日の生活②(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	東京23区・皇居(中級) 1日の行動②(初級) グループ毎に読み書き練習	小形真佐子 井上紀代	中村桂子
5	平成29年6月8日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	漢字について(中級) 一日の生活③(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	漢字の部首(中級) 1日の行動③、日曜日の過ごし方(初級) グループ毎に読み書き練習	井上紀代 松井治子	馬場正子
6	平成29年6月15日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	日本の社会事情①(中級) 一日の生活④(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	日本の特産物(中級) 1日の行動④、食べ物(初級) グループ毎に読み書き練習	新野佳子 小形真佐子	沼里聡
7	平成29年6月22日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	4	日本の社会事情②(中級) 一日の生活⑤(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	東京の世界1(中級) 動詞、形容詞を使った会話(初級) グループ毎に読み書き練習	宮下しのぶ 樋口博	中村桂子
8	平成29年6月29日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	日本の社会事情③(中級) 一日の生活⑥(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	最近のニュース(中級) 一日の行動復習、曜日・日付・時間(初級) グループ毎に読み書き練習	小形真佐子 新野佳子	馬場正子
9	平成29年7月6日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	日本の社会事情④(中級) 日本の伝統行事(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	東京のシンボル(中級) 七夕について(初級) グループ毎に読み書き練習	樋口博 井上紀代	沼里聡
10	平成29年7月13日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	日本の伝統行事(中級) 戸外学習について(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	日本の昔話「犬飼い七夕」(中級) 戸外学習と交通経路(初級) グループ毎に読み書き練習	新野佳子 小瀧雅子	中村桂子
11	平成29年7月20日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	戸外学習(中級/初級)	季節の行事「七夕」に関する伝承の世界: 東京タワー「天の川イルミネーション」見学	松井治子 宮下しのぶ	馬場正子 新野佳子
12	平成29年7月27日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	日本の歴史①(中級) 戸外学習振返(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	江戸時代(中級) 戸外学習を題材に過去描写・感想叙述(初級) グループ毎に読み書き練習	井上紀代 沼里聡	新野佳子
13	平成29年8月3日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	日本の歴史②(中級) 交通・経路①(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	明治時代～戦前(中級) 自宅・職場から教室までの経路(初級) グループ毎に読み書き練習	小瀧雅子 樋口博	井上紀代
14	平成29年8月10日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	日本の歴史③(中級) 交通・経路②(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	戦後～現代(中級) 自宅・職場～教室経路、所要時間(初級) グループ毎に読み書き練習	宮下しのぶ 馬場正子	小瀧雅子
15	平成29年8月17日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	日本の歴史④(中級) 日本の行事・風習(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	人々の生活の変遷(中級) お盆について(初級) グループ毎に読み書き練習	中村桂子 沼里聡	松井治子
16	平成29年8月24日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	日本の社会事情⑤(中級) 災害①(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	インスタ映え(中級) 日本で発生する災害の知識と表現(初級) グループ毎に読み書き練習	馬場正子 小形真佐子	樋口博
17	平成29年8月31日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	日本の社会事情⑥(中級) 災害②(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	異常気象(中級) 防災・地震への備え(初級) グループ毎に読み書き練習	中村桂子 松井治子	小形真佐子
18	平成29年9月7日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	日本の社会事情⑦(中級) 災害③(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	睡眠負債(中級) 天気・台風への備え(初級) グループ毎に読み書き練習	小形真佐子 新野佳子	宮下しのぶ

19	平成29年9月14日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	日本の社会事情⑧(中級) 病気①(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	お彼岸(中級) 病気の症状(初級) グループ毎に読み書き練習	樋口博 中村桂子	沼里聡
20	平成29年9月21日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	日本の社会事情⑨(中級) 病気②(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	食中毒(中級) 病院に行く(初級) グループ毎に読み書き練習	新野佳子 馬場正子	中村桂子
21	平成29年9月28日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	仕事①(中級) 病気③(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	求人広告、応募～面接流れ、履歴書(中級) 医者とのやりとり(初級) グループ毎に読み書き練習	松井治子 樋口博	馬場正子
22	平成29年10月5日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	仕事②(中級) 病気④(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	模擬面接(中級) 薬(初級) グループ毎に読み書き練習	井上紀代 小形真佐子	新野佳子
23	平成29年10月12日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	仕事③(中級) 買い物③(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	職場生活・職場の心構えを知る①(中級) 買物に関する語彙・表現(初級) グループ毎に読み書き練習	小瀧雅子 松井治子	宮下しのぶ
24	平成29年10月19日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	仕事④(中級) 漢字(中級)	職場生活・職場の心構えを知る②(中級) ハンドアウトにある漢字の読み書き練習	宮下しのぶ 沼里聡	樋口博
25	平成29年10月26日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	7	文化・習慣の違い①(中級) 買い物②(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	贈り物(中級) 買物に関する語彙・表現②(初級) グループ毎に読み書き練習	馬場正子 宮下しのぶ	松井治子
26	平成29年11月2日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	文化・習慣の違い②(中級) 買い物③(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	結婚事情(中級) 買物に関する語彙・表現③(初級) グループ毎に読み書き練習	沼里聡 宮下しのぶ	小形真佐子
27	平成29年11月9日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	9	文化・習慣の違い③(中級) 買い物④(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	出産・子育て事情(中級) 買物に関する語彙・表現④(初級) グループ毎に読み書き練習	中村桂子 小瀧雅子	井上紀代
28	平成29年11月16日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	8	文化・習慣の違い④(中級) 外食①(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	先祖供養(中級) 外食に関する語彙・表現(初級) グループ毎に読み書き練習	小形真佐子 井上紀代	沼里聡
29	平成29年11月30日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	3	文化・習慣の違い⑤(中級) 外食②(初級) 漢字(中級)、かな(初級)	ペット事情(中級) 外食に関する語彙・表現②(初級) グループ毎に読み書き練習	樋口博 新野佳子	中村桂子
30	平成29年12月7日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	4	社会事情(中級/初級) 文字学習(中級/初級)	欧米由来で日本に定着した行事(中級/初級) グループ毎に読み書き練習	新野佳子 小形真佐子	宮下しのぶ
31	平成29年12月14日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	戸外学習(中級/初級)	重要文化財に認定された東京駅と日本夜景遺産の丸の内イルミネーション見学	松井治子 井上紀代	新野佳子 沼里聡
32	平成29年12月21日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	4	社会事情(中級/初級) 文字学習(中級/初級)	年末・年始行事(中級/初級) グループ毎に読み書き練習	井上紀代 沼里聡	馬場正子
33	平成30年1月11日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	4	年始行事(中級) 好きなもの②(初級) 文字学習(中級/初級)	年始行事と新年の抱負(中級) 好きな食べ物・飲み物(初級) グループ毎に読み書き練習	小瀧雅子 中村桂子	松井治子
34	平成30年1月18日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	日本の社会事情⑩(中級) 好きなもの③(初級) 文字学習(中級/初級)	成人式(中級) 好きな色・場所・すること(初級) グループ毎に読み書き練習	宮下しのぶ 馬場正子	樋口博
35	平成30年1月25日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	日本の社会事情⑪(中級) 好きなもの④(初級) 文字学習(中級/初級)	冬季オリンピック(中級) 好きなこと・趣味(初級) グループ毎に読み書き練習	馬場正子 樋口博	松井治子
36	平成30年2月1日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	原稿の書き方(中級) 好きなもの④(初級) 文字学習(中級/初級)	原稿の書き方 私の好きな○○(中級) 好きなもの・こと・談話(初級) グループ毎に読み書き練習	沼里聡 松井治子	小形真佐子
37	平成30年2月8日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	発表会練習(中級/初級) 好きなもの・こと(中級/初級) 支援者と対話(中級/初級)	発表会で歌う歌の練習 支援者と対話:好きなもの・こと 発表会原稿の準備と作成	中村桂子 小瀧雅子	松井治子
38	平成30年2月15日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	発表会練習(中級/初級) 支援者と対話(中級/初級)	発表会で歌う歌の練習 発表会原稿の準備と作成	小形真佐子 馬場正子	宮下しのぶ 中村桂子
39	平成30年2月22日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	5	原稿作成(中級/初級) 好きなことわざ(中級/初級) 招待状作成(中級)	支援者と対話を進めながら発表原稿作成 発表会準備:好きなことわざ 招待状を作成・招待者に手渡し(中級)	樋口博 沼里聡	井上紀代 小形真佐子
40	平成30年3月1日(木) 18:30～20:30	2	浄土真宗本願寺派光明寺	6	プログラム作成・発表会準備 学習発表会	発表会流れに沿って予行演習、台詞等練習 お世話になった方を招いて学習発表会	宮下しのぶ 中村桂子	樋口博

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第24回2017年10月19日】

1. 挨拶、本日の日付・曜日
2. ことわざ「石の上にも三年」
3. 仕事④ 職場の心構えを知る・職場生活をおくる-2「職場での電話のかけ方、受け方 基本編」
 - ① 現在の職場で電話応対をしたことがあるか、職場以外でも、どのような時に日本語での電話応対を経験したかを話す。
 - ② 基本の電話応対を聞いて、会話の内容を理解する。
 - ③ 電話応対でよく使われるフレーズを覚える。
 - ④ 場面を想定して、電話をかける側と受ける側に分かれてロールプレイ。



○取組事例②

【第40回2018年3月1日】

学習発表会

1. はじめのことば: 学習者
2. スピーチ発表: 学習者6名がそれぞれのテーマで発表。各発表後に参観者との質疑応答
3. 私の好きなことわざ発表
4. 歌: 手紙～拝啓15の君へ～／ふるさと
5. 終りのことば: 学習者
6. 精勤賞授与: 精勤の3名に賞状と賞品、参加者全員に参加賞授与
7. ミニパーティー: 学習者と参加者歓談



(2) 目標の達成状況・成果

アンケート結果によると、ほぼ全員の参加者が「プログラムを受けて日本語が上手になったと思う」、「プログラムを受ける前よりも日本での生活ができるようになった」と答えている。また、全員が本プログラムに満足し、今後も日本語学習の継続を希望している。本事業で数年継続している学習者はコミュニケーション力が年を追って向上しており、今年度初めて参加した学習者も日本社会に対する理解を深めつつ、「生活者としての外国人」として必要な行為を日本語が学習できていると思われる。上記のことから、本年度立てた初期の目標は概ね達成できたと考えられる。

(3) 今後の改善点について

コミュニケーション力が向上してきている継続参加の学習者が多数いる一方、毎年コミュニケーション力がほとんどない学習者の途中参加を受け入れざるを得ないのが実情である。参加者間の日本語力レベル差、レベル別グループの人数の偏りは今後も避けられないと考えられるが、コミュニケーション力が高くない新たな参加者への対応、グループ合同学習の時間、内容については引き続き検討が必要と考える。今年度も諸事情により継続して来られなくなった参加者が多数出たため、参加者がなかなか固定しなかったが、来年度も引き続き事業の周知、参加者募集の方法を検討しつつ、多くの参加者が常に来るよう図っていきたいと考える。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:難民に対する日本語教育への理解を促進するための支援者研修】									
目的・目標	日本で暮らす難民とその家族、及び人道的見地から定住を認められている者への日本語支援を通じて、難民への理解を深めてもらい、日本における難民の理解者の輪を広げることを目標にする。また、難民への支援の基本的な考え方、方法、教材等について学ぶ。取組1で実施する日本語教室を実践の場所として、支援者が参加する機会を設ける。これにより日本語教室が学習者、支援者双方にとって良い学びと交流の場となること、支援者が難民への日本語教育を知ることによって、自ら支援を実践するきっかけとなることを目指す。								
対象	一般市民(地域のボランティア日本語支援者、難民について知りたい人、国際交流に興味のある人、日本語教師として幅を広げたい人など)								
取組の内容	26年度、27年度、28年度に続き、29年度が4回目の支援者研修となる。今年度も初回に難民の女性を講師に迎えた。支援に当たり、まずは学習者である難民の方を知る必要があるためである。2回から6回までは基礎研修として、外国語として日本語を客観的にとらえる目を養いつつ、日本語支援をする際に知っておきたい日本語の構造、日本語教育の基礎知識(音声、文字・表記、日本語教育文法、分かりやすい話し方)を学んだ。コミュニケーション重視で相互理解のための地域日本語支援の方法、生活日本語に適した教材や作成のノウハウ、日本の文化・習慣などの支援の方法についても学んだ。7回は「生活者としての外国人」に対する日本語教育の考え方を基に、その言語や言語学習に対する考え方が知識を学ぶ学習とどう違うのか、その目的などを標準的カリキュラム案を活用して学んだ。8回から10回は行動体験型の教室活動の実践例やその支援方法を学習した後、日本語教室において、実際に学習者を支援する実践研修を行った。学習者と1対1での対話支援、日本語教室での学習発表会に向けて、対話によるスピーチの内容引き出しから原稿作成、発表練習まで寄り添った支援を行った。								
実施期間	平成29年12月7日～平成30年2月22日					曜日・時間帯	木曜日(17:30 ～20:30)		
開催回数	全 30 時間 (1回 3時間 × 10回)					開催場所	公益社団法人国際日本語普及協会		
参加者	総数 13 人 (日本語学習者 0 人、指導者・支援者 13 人など)					使用した教材・リソース	講師作成オリジナルレジュメ・教材 文化庁「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案、教材例集		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	日本国(13人)								
カリキュラム案活用	2月1日(木)基礎7:「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案を知ろう」というテーマで、①概要、背景、目的、目標、言語学習や教室活動(行動体験中心の活動)について学んだ。(ガイドブックP.1～P.5)②「生活上の行為の事例」に対応する30単位の学習項目について概観したあと、具体例を取り出し学習した。(「I. 健康・安全に暮らす」から、「災害に備え対応する」、「健康を保つ」Ⅲ消費活動を行う IV. 目的地に移動する)(ガイドブックP. 54, 55) 2月15日(木)実践1:「行動・体験中心の教室活動」ーショウアンドテルの手法を応用・発展させ、対話による支援の方法を学んだ。また支援練習として、写真を見ながら質問したり、感想やコメントを述べあったりしながら会話をつなげていく実践練習をした。(ガイドブックP.37 P.50)								
養成・研修の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名	
1	平成30年12月7日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	12	基礎1 日本語支援の第1歩	難民当事者の生の声を聞き、難民の状況や日本語支援の必要性について学ぶ。難民当事者(講師)の話①難民として生きる②日本語のここが難しい③質疑応答	ラム マン	小瀧雅子	
2	平成30年12月14日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	8	基礎2 日本語ってどんなことばー音・文字	普段何気なく使っている日本語の音や文字について見直してみることで、日本語学習者が何に躓いていくのかを理解する。	宮下しのぶ	なし	
3	平成30年12月21日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	5	基礎3 日本語ってどんなことばー形(文法)①概観	生活者としての日本語教育での文法の扱い方、そして学習者の誤用はどこから生じるか、どこまで許容されるかなど、日本語の特徴と絡めて紹介し、検討する。	松井治子	なし	
4	平成30年1月11日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	6	基礎4 日本語ってどんなことばー形(文法)②	日本語教育における文法、特に名詞文・形容詞文について理解を深め、支援の方法を考える。	小形真佐子	なし	
5	平成30年1月18日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	7	基礎5 日本語ってどんなことばー形(文法)③	日本語教育における文法、特に動詞文について理解を深め、支援の方法を考える。	井上紀代	なし	
6	平成30年1月25日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	6	基礎6 わかりやすく話そうー相手に伝わる話し方	「わかりやすい日本語/やさしい日本語」がどのようなものかを知ることにより、外国人に伝わりやすい話し方を学ぶ。わかりやすい話し方ミニワークショップを行う。	新野佳子	なし	
7	平成30年2月1日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	8	基礎7 「体験行動型」の教室活動①	「生活者としての外国人に対する日本語教育のカリキュラム案」の概要を知り、幾つか教材を紹介することによって体験行動型の教室活動への理解を深める。	新野佳子	なし	
8	平成30年2月8日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	5	実践1 「体験行動型」の教室活動②	実践研修第1回目として、学習者のスピーチ原稿の支援を通し、教室活動への理解を深める。活動の体験に先立ち、作文の支援のポイントを考え、支援方法を学ぶ。	沼里聡	なし	
9	平成30年2月15日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	6	実践2 「体験行動型」の教室活動③	学習者と対話をしながら話を引き出す支援で必要なこと、注意すべき点等を考える。実際の支援を振り返り、気が付いたこと、良かったこと、難しかったこと、反省点、改善点を検討する。	新野佳子	なし	
10	平成30年2月22日(木) 17:30～20:30	3	(公社)国際日本語普及協会	6	実践3 「体験行動型」の教室活動④	これまでの基礎、実践研修の総まとめとして、ほぼマンツーマンで発表会に向けてのスピーチ原稿作成、発表練習などの支援活動を体験する。	中村桂子	なし	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 2017年12月7日】

○日本語支援の第一歩

- 1) 現在の日本語教育全般に関する動きを知り、地域在住外国人、難民の現状について学んだ。
- 2) 地域の支援活動の意義や役割について、受講者の経験談も交えながら考えた。
- 3) 難民の方を講師として迎え、当事者の声として、祖国での経験、来日後の生活を、PPTで写真などの資料を参考に、人生体験の話聞いた。
- 4) 質疑応答により、難民のおかれている状況への見識を深めた。



○取組事例②

【第8回 2018年2月8日】

前半は、実践活動に入る前の準備段階として、支援のポイント、注意点、方法などを学んだ。

後半は、実践研修として、実際に教室活動に参加し、一対一での支援を体験した。

○学習発表会に向けたサポート

- 1) スピーチ原稿について、学習者から話を引き出しながら、語彙、表現を補い、まとめていく作業を体験した。
- 2) 学習者の「好きなことわざ」について、同様に支援を体験した。



(2) 目標の達成状況・成果

受講生は、日本語支援を実際に行っている方4名、実際の支援経験はないが、難民支援に関わっている方5名、何も経験はないが、港区で仕事上外国人に関わりのある立場にいる方などが4名であった。第1回はほぼ全員が出席され、研修への関心と期待の高さが窺われた。勤めや仕事の合間に駆けつける方が殆どだが、欠席時の資料は持ち帰り、研修に熱心に参加された。アンケートには、初めて支援に関わった人も経験者も、回を重ねるごとに「生活者としての外国人」に対する日本語支援への理解と関心が深まったというコメントを多くいただいた。後半3回の実践研修に参加できた方は半数ほどに固定されたが、基礎研修の中で学んだことを活かして実際の支援を体験し、学習者の熱意や能力に大きな刺激を受けて、非常に貴重な経験となったとのコメントが多かった。生活の中に増えている外国人の方々への様々な関わり、どのように接していけばよいか、今後実際に支援ができるできないに関わらず、今回の研修が、受講者の方々に様々な形で強く感じる場を与え、周囲の人へと関心のすそ野を広げていく機会となったことは確かだと感じる。講座終了後には、港区の外国籍や外国ルーツの方々に関する政策等に関わる企業勤務の受講者から、今後も継続した連携をしていきたい旨の申し出があった。若い世代の参加も多く、今後の外国人との共生社会を支える力を育み、支援の輪を広げていくという役割をもある程度担えたのではないかなと思われる。

(3) 今後の改善点について

17時半の開始時刻に間に合って出席できる方は少なく、いつも少人数での開始となった。勤務のある方にとっては、開始時間が早く、どうしても30分～1時間遅れての参加となる。一方、遠くからでも万難を排して定刻に参加する方もいる。今後すそ野を広げていくためにも、受講者の多様で多忙な状況は避けられないと思われる。研修は講師による一方的な講義ではなく、受講者の経験、意見などを聞きながら、自発的な関わりができるように工夫しているが、人の集まらない時間帯をどう有意義に使うか、また途中参加でも実りのあるものになるよう、その時々に応じた臨機応変な工夫も必要だろう。また、研修期間は3か月で最後の実践研修にはなかなか参加できなくなる方も多い。実際の活動体験を、早めに取り入れられるなど、教室学習とも活動内容を調整し、支援者研修のスケジュールを工夫することも検討してみたい。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者のための日本語学習用教材作成事業】

目的・目標	難民及びその家族等定住者を対象とした日本語学習支援教材を作成し、定住者の生活の安定、質の向上に寄与し得る教材を広く一般に公開することを目的とする。		
対象	難民及びその家族、人道的配慮により在留を認められた者をはじめとした定住者		
教材の内容	「生活者としての外国人」を対象とした日本語教育事業を実施して5年目となり、これまで標準的カリキュラム案にある各テーマを題材とした教材を多数作成してきた。そこで本年度は、数年継続して学習を進めている学習者を対象として、より深く日本社会を理解し、日本での生活をより豊かにするための教材を多数作成した。具体的には日本で就職、転職する際に有用な教材、日本の伝統行事や慣習などの社会事情や日本の地理、歴史や社会の動きに焦点を当てた教材等を盛り込んだ。		
実施期間	平成29年5月11日～平成30年3月1日	成果物のリンク先	未定
作成教材の想定 授業時間 コマ数と頁数	1回2時間 × 40回 = 80時間分	教材の頁数	105 ページ
カリキュラム案活用	・カリキュラム構築の際、「生活上の行為の事例」および「事例に対応する学習項目の要素」を活用 ・学習者のニーズ把握に「生活上の行為の事例」の多言語版を利用 ・教材作成の際、必要に応じて「教材例集」を参照		
教材の活用方法	「生活者としての外国人」を対象とした日本語授業、ボランティア教室において、継続して学習を進めている方により深く日本社会や伝統行事、慣習等の社会事情を理解していただく際有用な教材例集、参考教材として活用していただきたいと考える。		
今後の活用の予定	文化庁ホームページにも掲載されることを想定しているが、合わせて本事業の支援者研修やその他各種地域養成講座の場において支援者に紹介していくことで支援の場で広く活用していただけるようにしていきたいと考える。 また、来年度引き続き実施予定の本事業においても必要に応じて改定を加えながら活用していく。		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

難民問題が世界を揺るがしている現在、日本にとっても難民を今後どう受け入れるかは喫緊の課題である。難民が日本社会で自立し安全で健康的な暮らしを成立していくために、日本語支援がどうあるべきかという問題は、いまだ社会で十分に議論され共有されているとはいえない。AJALTの日本語講師はインドシナ難民受け入れの時代から今日まで約36年にわたって難民事業本部の運営の下、難民への日本語教育を実践し、また地域や企業においても教育・支援を行うなど幅広く活動してきた。難民への日本語教育は今日、地域で求められている「生活者としての外国人」のための日本語教育そのものといえるが、加えて実践にあたっては難民という特殊性に対する理解も必要である。また、多くの地域の教室がそうであるように、多文化、多言語、レベル差などに対応した教室運営が求められる。さらに今後の難民をはじめとする定住外国人支援の方向性としては、難民たち自身の自助の力を下支えし、架け橋となる人材を育てていくことも重要な課題である。本事業では「難民への日本語教育・支援」について、その基本的な考え方、方法、教材等について、支援者の理解の輪を拡げ、当事者支援者を含め層を厚くしていくことを第一の目的とするとともに、学習機会と場を切望する多くの難民とその家族、人道的配慮により在留を認められた人々に向けた日本語教室を昨年に引き続き実施する。この日本語教室をモデル教室として運営し、実践の場に支援者が参加する機会を提供する。モデル教室が学習者、支援者双方にとって良い学びと交流の場となり、結果として①学習者にとっては日本語力の向上、社会参加の促進、②支援者にとっては難民への日本語教育への理解促進、自らの実践に向けた動機づけとなることを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

本年度事業「日本語学習支援事業」では、「生活者としての外国人」が日本の文化や社会に関する知識を深めながら、日本での生活の基盤を形成する上で必要な行為を日本語を使ってできるようにするという初期の目標は概ね達成できたと考える。「支援者研修事業」においても「コミュニケーション重視で相互理解のための地域日本語支援の方法、生活日本語に適した教材や作成のノウハウを学び、自ら支援を始める動機付けとなる」という目標を概ね達成できたと考える。「学習教材の作成事業」で蓄積してきた教材等を活かしつつ、今後も引き続き日本における難民の理解者の輪を広げることに貢献していきたい。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

支援者研修においてカリキュラム案の「生活上の行為」に挙げられた項目をひとつひとつ見ていくことにより「生活日本語」の具体的なイメージをつかんでいただくのに役立った。いつもあげられることではあるが、どの程度言えば(できれば)達成できたと考えてよいかの判断基準が難しいとの意見が出ていた。教材作成においては、教材例集の病気や災害の教材等が参考になった。また、ガイドブックの活動方法例はタスク(実体験、インタビュー、ロールプレイ)、エクササイズ(ショーアンドテル、スキミング、スキヤニング)等教室活動を実施する際参考になった。

(4) 地域との関係者との連携による効果、成果等

昨年から引き続き、今年度も事業の広報や実施内容検討において港区役所および港区国際交流協会から協力を得た。公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部からは、難民コミュニティや関係者への広報等において協力を得た。弊会に隣接する浄土真宗本願寺派光明寺には、本年度も「日本語学習支援事業」の会場提供において協力をいただき、住職からは地域住民のコミュニケーション促進活動を推進する立場からも助言、協力をいただいた。更に当事者による支援団体であるJMCCミャンマー・カルチャーセンター等にも呼び掛け、支援者研修に多数の参加者を得た。港区を拠点として、難民に焦点を当てた本事業では、上記の団体、個人の他今後も多数の関係者との連携を深めつつ引き続き推進していきたいと考える。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

「日本語学習支援事業」においては、公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部を通じて難民コミュニティやRHQ支援センター修了者に対して広報活動を行った。更に港区役所と港区国際交流協会の協力を得て地域在住の定住外国人への広報活動を行った。その他難民が多く集まる飲食店等、継続参加者からの口コミによる周知も図った。「支援者研修事業」においては、港区役所および港区国際交流協会の協力を得て地域の支援団体、個人への周知・広報活動を行った。更に難民支援関係団体等を通じて支援者への周知を図った。本事業成果については、上記団体を通じた関係者への発信を今後も継続していくとともに、ウェブサイトや弊会が関わる各種催し等の機会を通じても引き続き行っていく。

(6) 改善点、今後の課題について

本事業の実施を通じて、港区及び港区国際交流協会との協力関係が年々深められてきている。公益財団法人アジア福祉教育財団や難民支援関連団体との横の繋がりが強化されてきており、今後も引き続き本事業を継続発展させていくために「日本語学習支援事業」を地域支援者等に開かれた場所とし、より多くの関係者との連携を図っていききたいと考える。「日本語学習支援事業」、「支援者研修時事業」の周知については今後も更なる充実を図りつつ、より多くの参加者と成果が共有できるよう引き続き努めていきたいと考える。

(7) その他参考資料

参考資料1 第1、2、3回運営委員会議事録
参考資料2 日本語学習支援事業 授業報告 HPへは掲載無し
参考資料3 日本語学習支援事業 出席簿 HPへは掲載無し
参考資料4 日本語学習支援事業 ご案内(日本語、英語、ミャンマー語版)
参考資料5 日本語学習支援事業 アンケート
参考資料6 支援者研修事業 報告書 HPへは掲載無し
参考資料7 支援者研修事業 出席簿 HPへは掲載無し
参考資料8 支援者研修事業 ご案内
参考資料9 支援者研修事業 アンケート